

---

# ぼくの世界

雪兎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ぼくの世界

### 【著者名】

N4115B

### 【作者名】

雪兎

### 【あらすじ】

ぼくはきょう「悪いこと」がおこった。そのせいでぼくのじんせいはかわってしまった。ぼくのことなんかほつとけばいいのに…

## 0・月が赤く笑つた

帰らなくちゃ

朝、寝坊なんかしなけりやよかつた。

遅刻して、説教されて、罰をうじせられた。

「あ～あ、いやだな」

そうじに苦戦して遅くなつた。

辺りはもう真つ暗で月まででてる。

いそがないと琴音さんに怒られるし、

それに…

それに、今日の月はなんだか赤くて、妖しく笑つてるみたいだ。

月が赤く笑うとき、悪いことがおきる。

小さい頃、おばあちゃんがいつも言つてた話。

悪いこと…何がおこるんだ。

辺りがまた少しずつ暗くなる。

いそがなくちやと思つてぼくは近道を通りて歩くことにした。べ、べつに怖いからとかしゃない。

いつもとは違う道、右に曲がつてぼくはホッとした。でもこつもは

人で賑わってる道は、

今日はまったく誰も居なくて、ぼくん、とある電灯の光がぼくの恐怖を感じさせた。

「ひツ……」

ゾゾツ

寒気を感じたぼくは怖くなつて、走りだした。

× × ×

「遅いなあ、悠ちゃん」

やつぱり朝、寝坊したせいかしら?

いつもより35分ぐらいに起きたものだし、遅刻して説教されたの  
ね、きっと。

片倉先生、厳しいから罰そうじさせられたのね。  
そうじやなかつたらこんなに遅いわけないし。

でもねえ…もう時計は8時30分だし、  
まったくどうしたものかしら。

星も、月もでてい……！？

「月が…、赤い…」

！？悠ちゃんがあぶない！！

大変…

「間に合つかしら」

ジーパンに履き替えて、

書を抱えて、

勢いよく 飛び出した。

## 0・月が赤く笑うとき（後書き）

月が、赤い。赤く、笑う。何が起きる？何が起ころる？何が狂う？

## 1・陥じい奴ら

「はあ、はあ、はあ」

走っても走っても  
脱け出せない。

やつぱり、何かがおきてる。  
「でも、でも……何が……」

チリーン

後ろから鈴の音が聞こえた。

チリーン、チリーン

その音はだんだんぼくに近くなつてくる。

チリン、チリーン

来る

バツ

後ろをふりかえった。

「……誰?」

黒い「一」に黒い帽子。髪も黒っぽくて。

「…黒づくめ…」

あやしい。

「……」

黒い人は無言。

「……」

くいつ

黒い人は来いと言つかのように手招きをした。

「何…？」

黒い人はそのまま真っ直ぐ歩いて左へ曲がった。

「…おい、ちょっと」

ぼくは黒い人を追い掛けた。

× × ×

「悠ちやん、悠ちやーん」

随分と走った。

悠ちゃんが居そうな場所を全部回った。  
でも、見つからない。

「はあ、はあ、悠ちゃん」

探さなきや、

きつと悠ちゃんの身に何かがおこつてゐる。

悠ちゃんを助けなきや、

「はあ、は、あやあーー！」

ドス、

な、何ーー！

ぶつかつたやつを見ると、白いフードを被つた銀髪の男が居た。

「あ、『めんなさ、』」

「貴方は杉刃 琴音ですか？」

へ？私の名前…

「何で知ってるのです？」

もしやこの子、紅連の者…？  
いや、そんなはずない。

あそこの私の情報は削除したはず。  
だからこんなにはやく分かるはずがない。

「彼方は…」

「ふふ、私は紅連の者ではありませんよ？」

私は、白槍の者です「

…白槍…！」

……………  
どこだ、それ。  
聞いたことない。  
新しいのか？

「白槍…」

男は笑う。

「ははッ、やつと見つけた。杉刃 琴音。  
あはは、双樹 悠はどこだ？」  
妖しく、笑う。

「コイツ… 悠ちゃんを知つてゐる？」

「悠ちゃんを、知つてゐるの？」

「ははッ、ビンゴだ。  
いや、知つてる。  
が、知らない」

理解不明よ。

「矛盾、してゐるわね」

また男は笑つた。

「だが私らには彼女が必要なのさ」

何のために…

「くははッ、君はそのための犠だ？」

チッ、やばいと思つて走りだす。

「逃がさない、

『黒之槍』」

「あッ、  
『蒼之壁』」

「あッ」と男の影が動きだす。  
影は槍のように私の足に降りかかる。  
ゆらりと空が「う」く。  
私のまわりは霧のようなもので包まれ、目の前には青い透明な壁が  
広がる。

ガキイン、  
壁に影がぶつかつた。

やつた、と思つた。  
でも、

「くす、あつま~い」

次の瞬間、

ドゴッ、  
バリ、バリーッ

壁は一気に崩れさり、  
瞬きの間に、  
ぐいッ  
足に、巻き付いた。

「んふ、捕まえた」

嬉しそうに、悲しそうに男は笑っていた。

## 1・怪しき奴ら（後書き）

闘え、闘え。我等の為に。守れ、守れ。我等の為に。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4115b/>

---

ぼくの世界

2011年1月22日02時53分発行